

第49回景況アンケート調査 結果報告書

(令和3年1月20日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
Tel0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 2年 10月～12月期》実績
《令和 3年1月～3月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和2年12月21日(月)～令和3年1月7日(木)

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業206社
(うち回答企業数160社：回答率77.7%)

4. 回答企業数

製造業	57	社
繊維工業	18	社
建設業・設備工事業	22	社
卸売業・小売業	28	社
飲食業・サービス業	35	社
計	160	社

5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

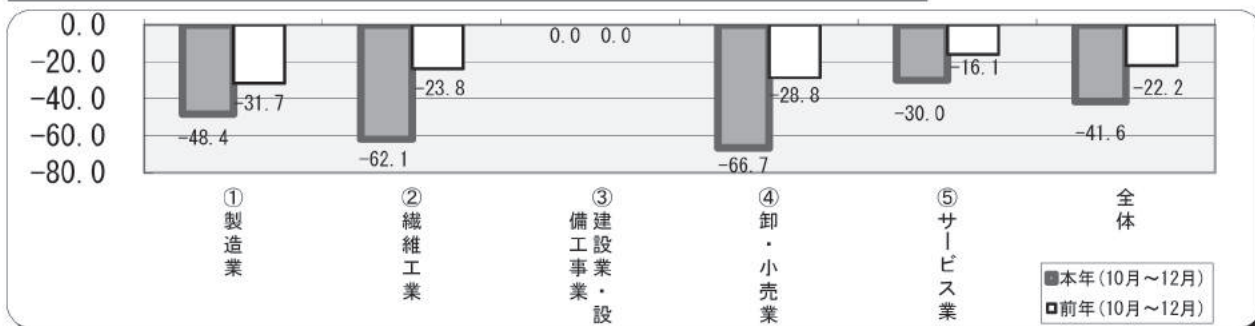
x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数

y：「普通」「適正」の回答企業数

z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

I. 当期（10月～12月）の景況について

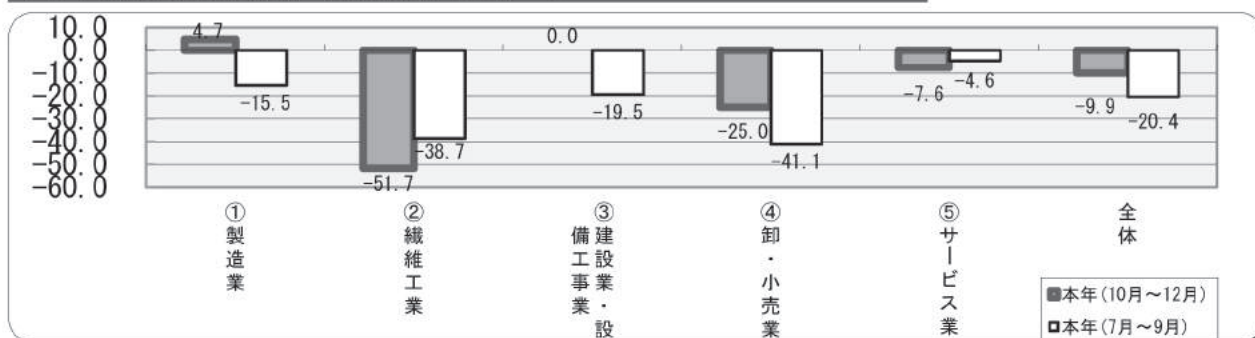
1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



【業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲41.6ポイント（前年同期▲22.2）と、前年同期に比べて19.4ポイント悪化した。業種別でも、製造業では16.7ポイント、繊維工業では38.3ポイント、卸・小売業では37.9ポイント、サービス業では13.9ポイント悪化した。また、建設業・設備工事業では0ポイント（前年同期0）と、前年同期と変わらなかった。

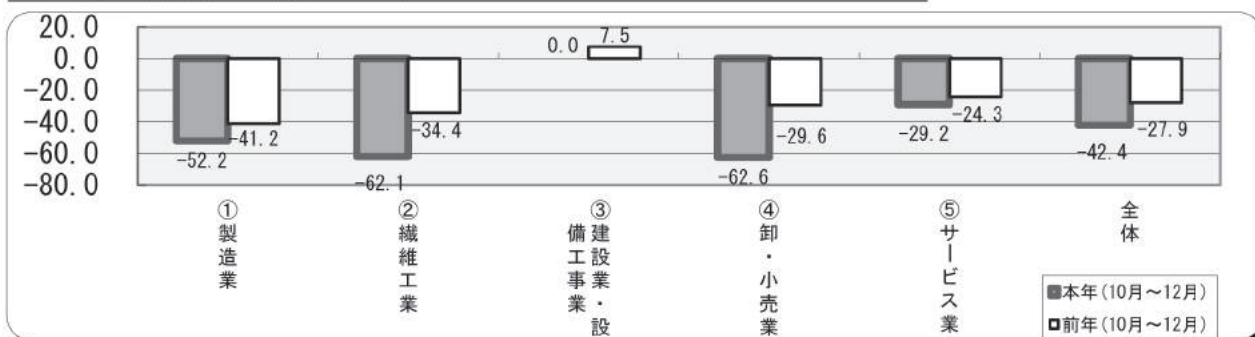
2. 当期の業況は前期（3ヵ月間）に比べて



【前期（前3ヵ月間）業況D I】

当期の業況D Iは、全体では▲9.9ポイント（前期▲20.4）と、前期（前3ヵ月間）に比べて10.5ポイントマイナス幅が縮小した。業種別では、製造業が20.2ポイント、建設業・設備工事業が19.5ポイント、卸・小売業では16.1ポイントとマイナス幅が縮小したが、繊維工業が13ポイント、サービス業では3ポイントマイナス幅が拡大した。

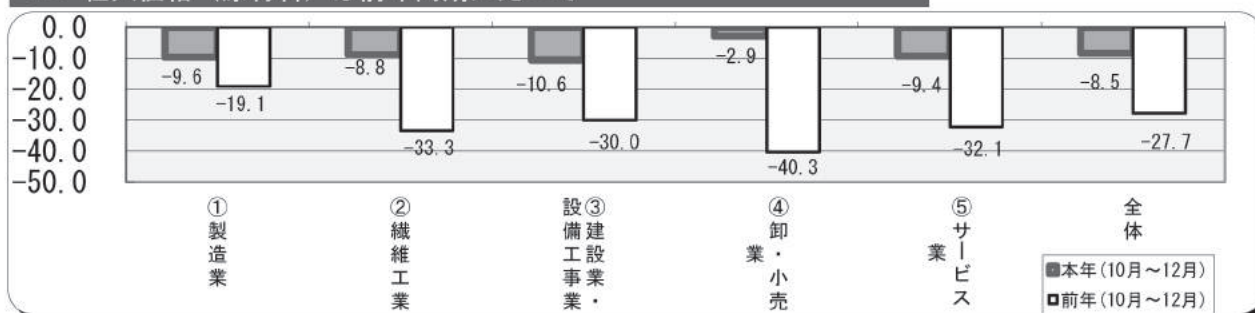
3. 売上高は前年同期に比べて



【売上高前期D I】

売上高D Iは、全体では▲42.4ポイント（前年同期▲27.9）と14.5ポイントマイナス幅が拡大した。業種別では、製造業では▲11ポイント、繊維工業では▲27.7ポイント、卸・小売業では▲33ポイント、サービス業では▲4.9ポイントとマイナス幅が拡大したが、建設業・設備工事業では7.5ポイント減り、標準指数となった。

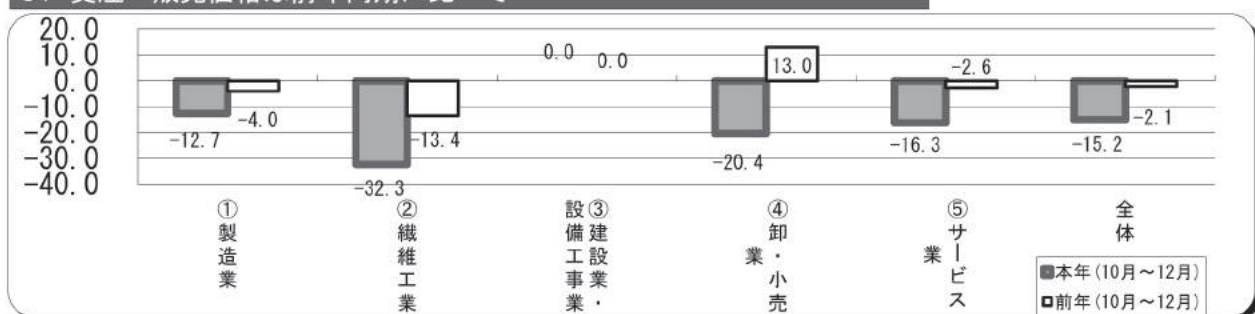
4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて



【仕入価格（原材料）D I】

仕入価格（原材料）D Iは、全体では▲8.5ポイント（前年同期▲27.7）と前年同期に比べて19.2ポイントマイナス幅が縮小した。業種別でも、マイナスではあるもののマイナス幅が全業種とも縮小の傾向が見られた。

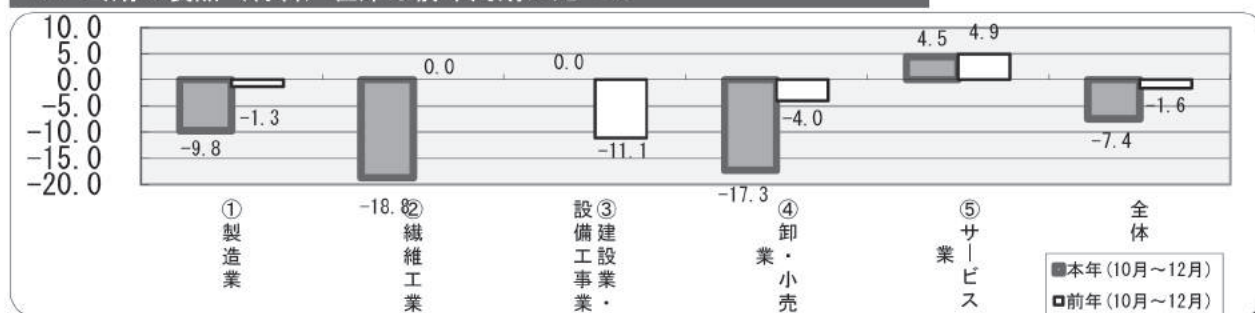
5. 受注・販売価格は前年同期に比べて



【受注・販売価格D I】

受注・販売価格D Iは、全体では▲15.2ポイント（前年同期▲2.1）と前年同期と比べて13.1ポイントマイナス幅が拡大した。業種別でも、製造業では8.7ポイント、繊維業では18.9ポイント、サービス業が18.9ポイント、マイナス幅が拡大した。また、卸・小売業が33.4ポイント下落しマイナスに転じた。建設業・設備工事業では前年同期と変わらなかった。

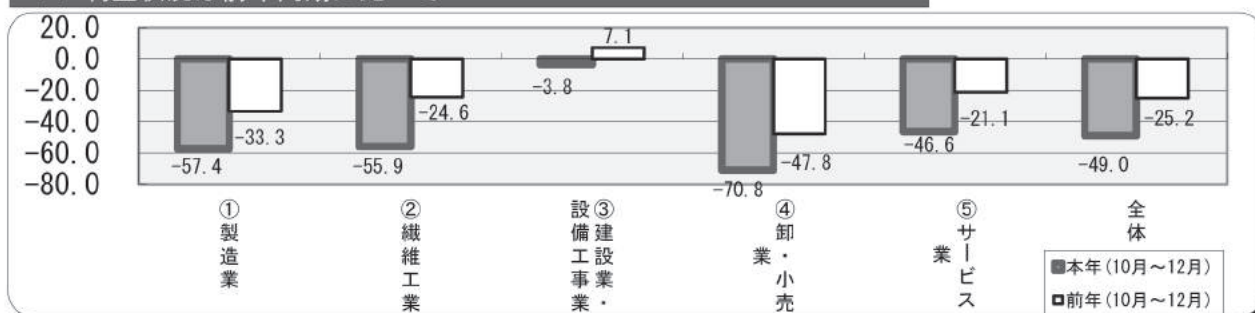
6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて



【在庫D I】

当期の製品（材料）在庫D Iは、全体では▲7.4ポイント（前年同期▲1.6）と、前年同期に比べて5.8ポイント悪化した。業種別では、製造業、繊維工業、卸・小売業でマイナス幅が拡大した。建設業・設備工事業では、0ポイント（前年同期▲11.1）とマイナス幅が解消された。一方、サービス業では、4.5ポイント（前年同期4.9）と変わらず、在庫過多が続く。

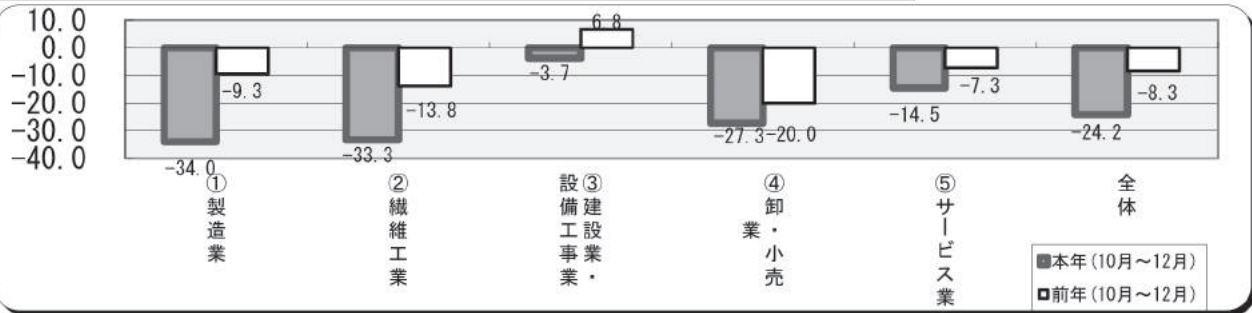
7. 利益状況は前年同期に比べて



【利益状況D I】

利益状況D Iは、全体では▲49ポイント（前年同期▲25.2）と、前年同期と比べて23.8ポイント大幅に悪化。業種別では、全ての業種でマイナス幅が拡大。また、前年同期でプラスであった建設業でも10.9ポイント下落しマイナスに転じた。

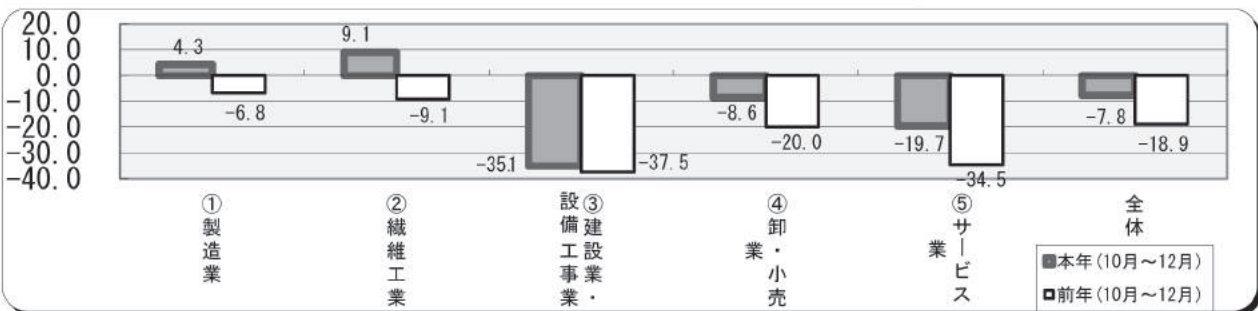
8. 資金繰りは前年同期に比べて



【資金繰りD1】

資金繰りD1は、全体では▲24.2ポイント（前年同期▲8.3）と、前年同期と比べて15.9ポイント悪化した。業種別では、製造業の24.7ポイント悪化したように、繊維工業、卸・小売業、サービス業でもマイナス幅が拡大。また、前年同期ではプラスであった建設業・設備工事業でもマイナスに転じ、全業種でマイナスとなった。

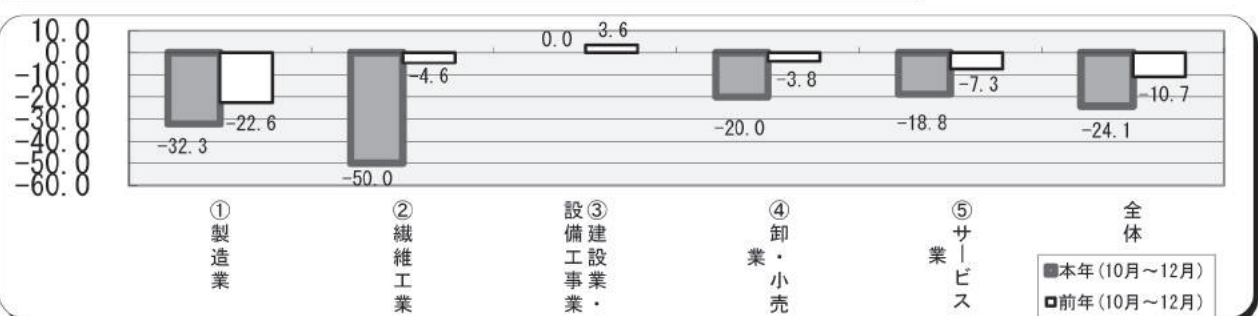
9. 労働力は前年同期に比べて



【労働力D1】

労働力D1は、全体で▲7.8ポイント（前年同期▲18.9）と、前年同期に比べて11.1ポイント増加しマイナス幅が縮小した。業種別では、建設業・設備工事業が2.4ポイント、卸・小売業が11.4ポイント、サービス業が14.8ポイント、マイナス幅が縮小した。その他、製造業、繊維工業では、マイナスからプラスに転じた。

10. 設備稼働率は前年同期に比べて

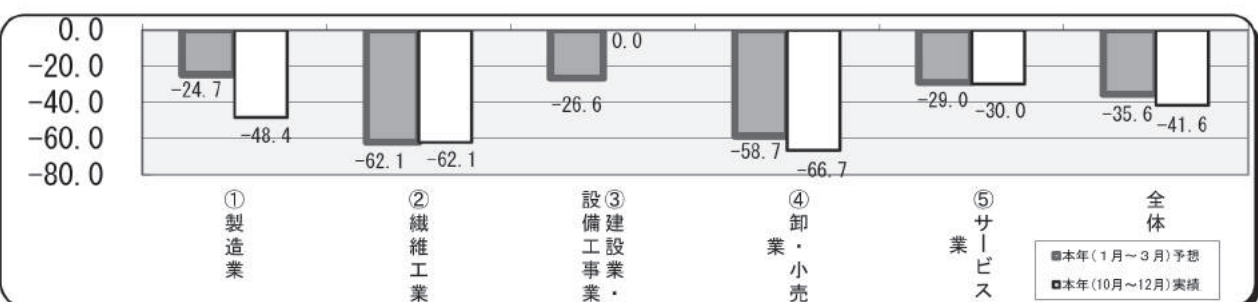


【設備稼働率D1】

設備稼働率D1は、全体で▲24.1ポイント（前年同期▲10.7）と、前年同期に比べて13.4ポイントマイナス幅が拡大。業種別では、製造業、繊維工業、卸・小売業、サービス業もマイナス幅が拡大した。また、建設業・設備工事業が0ポイント（前年同期3.6）と前年同期と比べ3.6ポイント減少し設備稼働率が適正と回答した企業が多かった。

II. 今後3ヵ月間(令和3年1月~3月)の推移の予想について

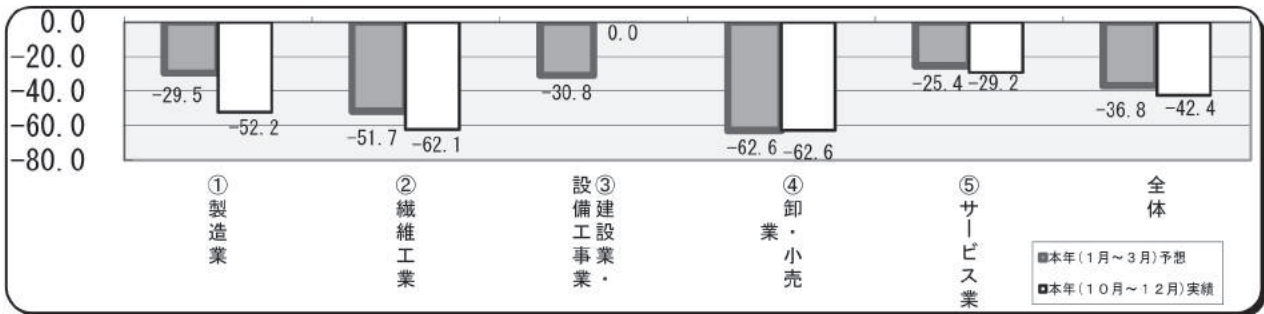
11. 業況は当期(10月~12月期)に比べて



【業況(当期に比べて) D I】

今後3ヵ月間の先行き見通しD Iは、全体で▲35.6ポイント(当期▲41.6)と、6ポイントマイナス幅が改善する見込みだが、依然マイナス傾向が続く。業種別では、製造業をはじめ全ての業種で今後の業況が悪化すると予想する回答が多い。

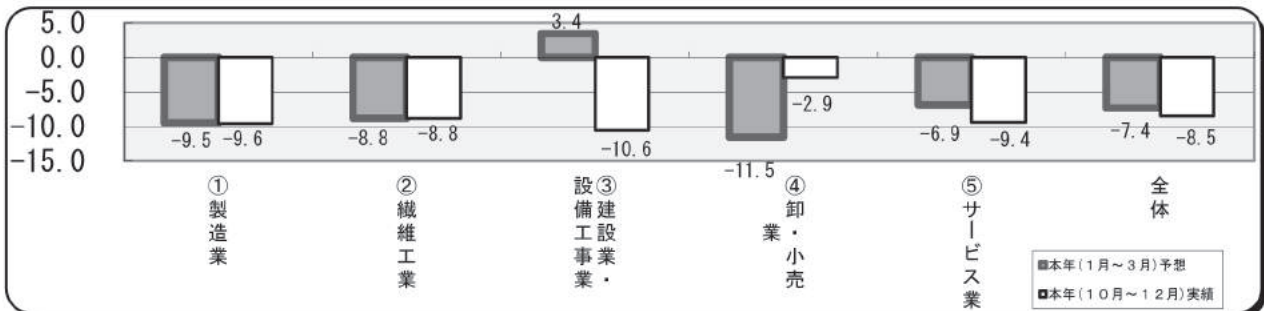
12. 売上高は当期(10月~12月期)に比べて



【売上高(当期に比べて) D I】

売上高D Iは全体で▲36.8ポイント(当期▲42.4)と、5.6ポイントマイナス幅が縮小する見込みだが、依然マイナス傾向。業種別では、製造業22.7ポイント、繊維工業10.4ポイント、サービス業3.8ポイントと、マイナス幅が縮小される見込み。また、建設業・設備工事業30.8ポイントマイナスに転じた。卸・小売業は、依然マイナス傾向。

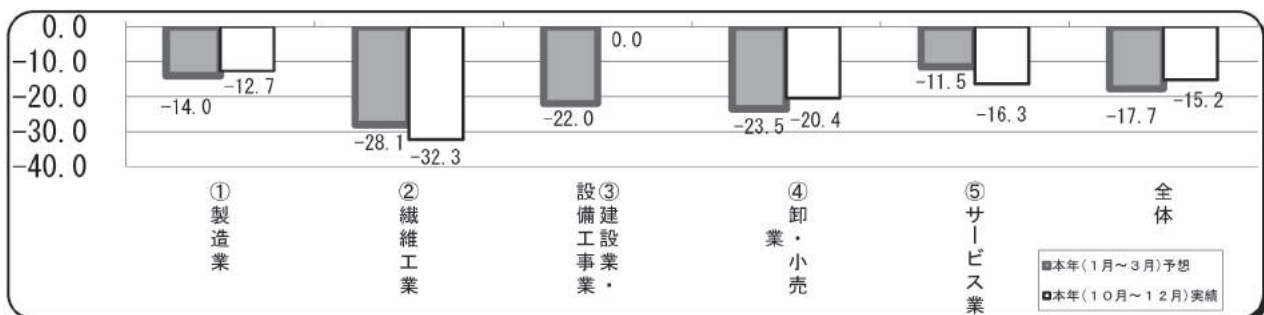
13. 仕入価格(原材料)は当期(10月~12月期)に比べて



【仕入価格(原材料) D I】

仕入価格(原材料)D Iは全体で▲7.4ポイント(当期▲8.5)と、1.1ポイントマイナス幅が縮小する見込み。業種別では、卸・小売業ではマイナス幅が拡大、サービス業ではマイナス幅が僅かに縮小する見込。建設業・設備工事業はプラスに転じた。また、製造業、繊維工業では、変わらずマイナスの見通し。

14. 受注・販売価格は当期(10月~12月期)に比べて

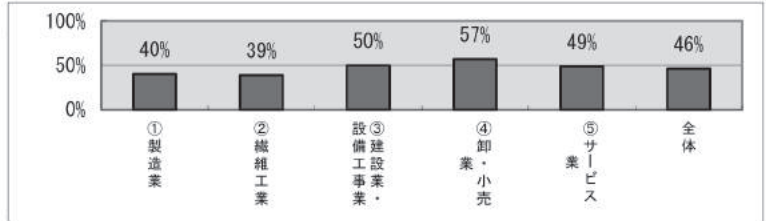


【受注・販売価格D I】

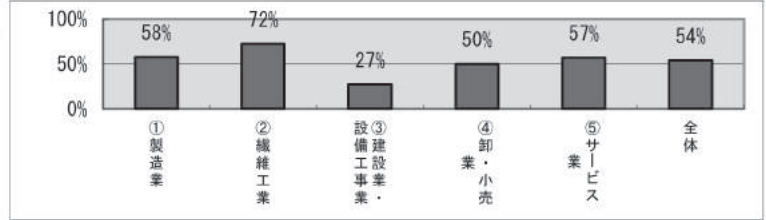
受注・販売価格D Iは全体で▲17.7ポイント(当期▲15.2)と、2.5ポイントとマイナス幅拡大の見込み。業種別では、繊維工業、サービス業ではマイナス幅が縮小の見通しだが、製造業、卸・小売業ではマイナス幅拡大の見通し。建設業・設備工事業に至っては、22ポイント下落とマイナスに転じる見通し。

Ⅲ. 当期直面している経営上の問題点

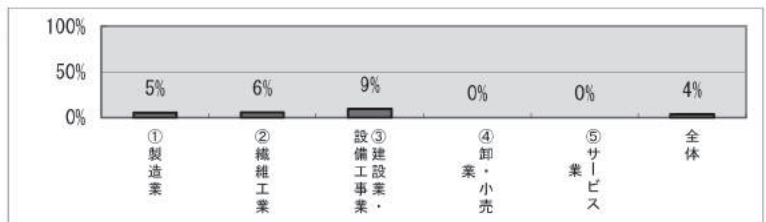
1. 経営の見通し（将来性）	
①. 製造業	23
②. 繊維工業	7
③. 建設業・設備工事業	11
④. 卸売業・小売業	16
⑤. サービス業	17
全 体	74



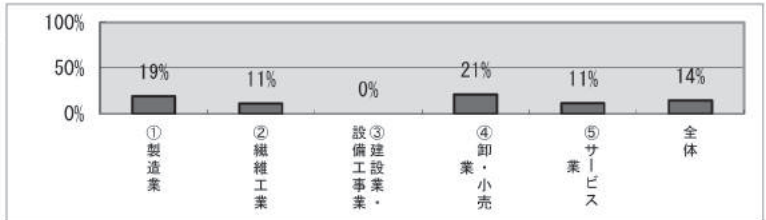
2. 売上（受注）の低下	
①. 製造業	33
②. 繊維工業	13
③. 建設業・設備工事業	6
④. 卸売業・小売業	14
⑤. サービス業	20
全 体	86



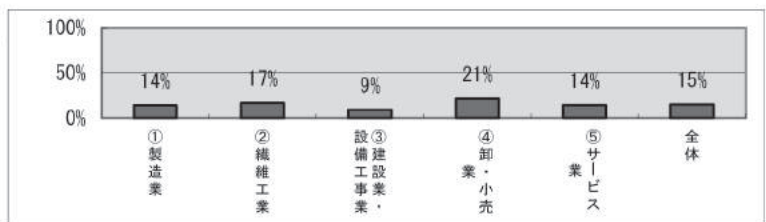
3. 工賃（請負）単価の低下	
①. 製造業	3
②. 繊維工業	1
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	0
⑤. サービス業	0
全 体	6



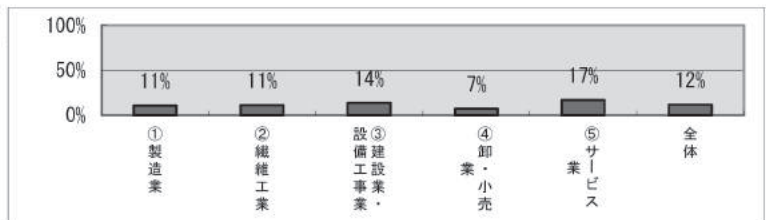
4. 原材料（商品）仕入価格の上昇	
①. 製造業	11
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	0
④. 卸売業・小売業	6
⑤. サービス業	4
全 体	23



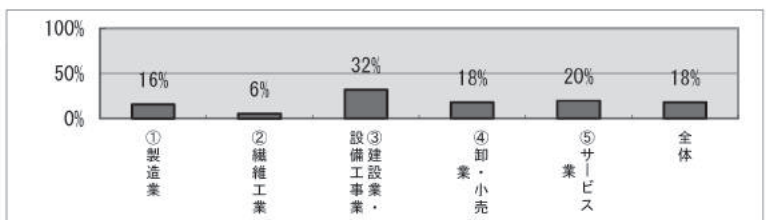
5. 資金繰りの悪化（資金調達など）	
①. 製造業	8
②. 繊維工業	3
③. 建設業・設備工事業	2
④. 卸売業・小売業	6
⑤. サービス業	5
全 体	24



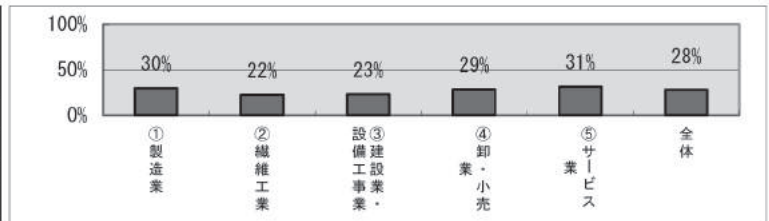
6. 既存事業の立て直し（コスト削減等）	
①. 製造業	6
②. 繊維工業	2
③. 建設業・設備工事業	3
④. 卸売業・小売業	2
⑤. サービス業	6
全 体	19



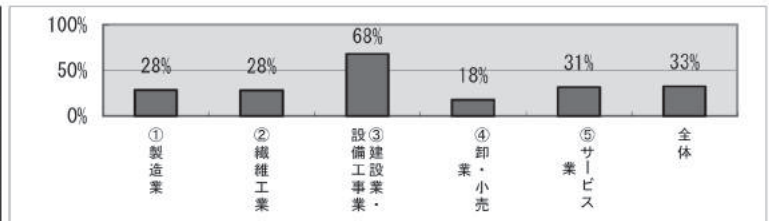
7. 経費（人件費・外注費）の増加	
①. 製造業	9
②. 繊維工業	1
③. 建設業・設備工事業	7
④. 卸売業・小売業	5
⑤. サービス業	7
全 体	29



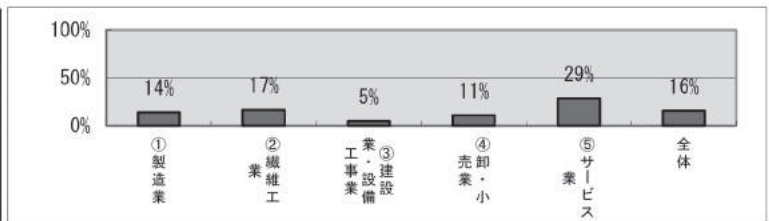
8. 設備・店舗・工場等の老朽化		
①. 製造業		17
②. 繊維工業		4
③. 建設業・設備工事業		5
④. 卸売業・小売業		8
⑤. サービス業		11
全 体		45



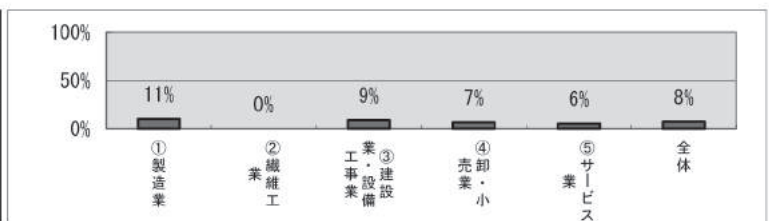
9. 従業員・技術者等の確保難		
①. 製造業		16
②. 繊維工業		5
③. 建設業・設備工事業		15
④. 卸売業・小売業		5
⑤. サービス業		11
全 体		52



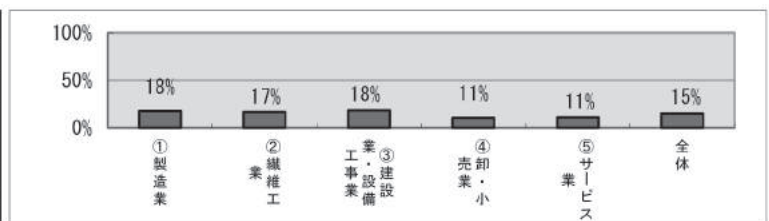
10. 消費者（製品）ニーズの変化		
①. 製造業		8
②. 繊維工業		3
③. 建設業・設備工事業		1
④. 卸売業・小売業		3
⑤. サービス業		10
全 体		25



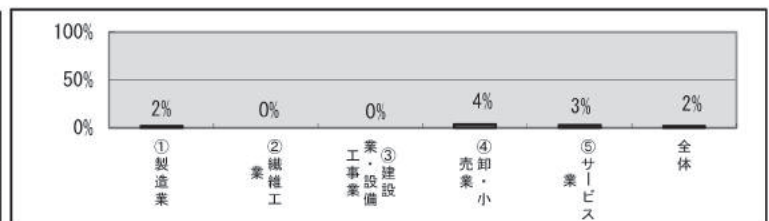
11. 業者間（大企業進出・新規参入）競争の激化		
①. 製造業		6
②. 繊維工業		0
③. 建設業・設備工事業		2
④. 卸売業・小売業		2
⑤. サービス業		2
全 体		12



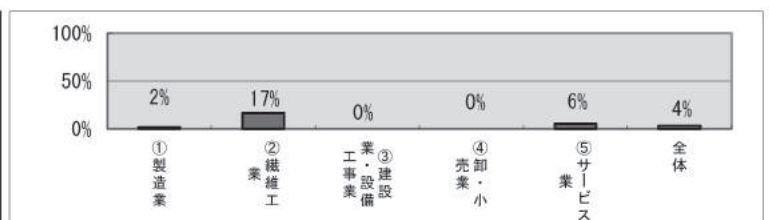
12. 後継者難と事業承継		
①. 製造業		10
②. 繊維工業		3
③. 建設業・設備工事業		4
④. 卸売業・小売業		3
⑤. サービス業		4
全 体		24



13. 円の動向による影響		
①. 製造業		1
②. 繊維工業		0
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		1
⑤. サービス業		1
全 体		3



14. 電気料金値上げに伴う対応		
①. 製造業		1
②. 繊維工業		3
③. 建設業・設備工事業		0
④. 卸売業・小売業		0
⑤. サービス業		2
全 体		6



【経営上の問題点】

経営上の問題点では、全体で「売上(受注)の低下」を挙げた企業が54%で最も高く、次いで「経営の見通し(将来性)」(46%)、「技術者(従業員)の確保難」(33%)、「設備・店舗・工場の老朽化」(28%)、「経費(人件費・外注費)の増加」(18%)、「消費者(製品)ニーズの変化」(16%)と続いている。

業種別では、多少の差はあるもののほとんどの業種で、「売上(受注)の低下」が大きな問題として挙げられている。コロナ禍で先行きが見通せない状況から、全業種とも「経営の見通し(将来性)」に不安を示す結果となっている。中でも繊維工業は売上(受注)の低下(72%)が顕著に表れている。

コロナウイルス感染の再拡大がみられ、不要不急の外出自粛の継続を余儀なくされる中、食料品や生活必需品等を販売しているスーパー等の小売店、消毒液や除菌スプレー等の製造や販売業者などで一部売上を伸ばしている業界がある一方、人が集まる飲食店や旅行会社宿泊業などのサービス業はより厳しい業況が続く。いずれにしても、コロナ感染の影響の先行きがみえないことはどの業界にも言えることであり、効果的なワクチンが開発され安定的に供給されるようになるまでは、厳しい状況が続きそうだ。

【景況に関することや直面している問題点等のコメント】

◎製造業

- ・自動車産業に携わる者として、今後生産及び開発がウイルスの拡大が続いた場合、どの様に変化するのかわからない。
- ・コロナ禍の影響で、ヒト、モノ、カネの動きが平時と全く異なり、国の方針やメディアの発信の仕方によって流れがいつも簡単になってしまう。翻弄されずにこの波を乗り切るには、並大抵のことではないが、やらねばならない。
- ・今年から、工業製品(部品として)は売上ダウンになる。国内向け製品が減少傾向。新しい製品が出てこない、もっと大変になりそう。
- ・10~12月と市内企業の破産・精算をいくつか耳にした。都市部の景況は回復傾向にあると言われているのに対し、地方ではその兆しは感じない。GoToやオリンピックなど一発逆転の経済対策に頼らない対策を考えてほしい。
- ・今年度はコロナ関連製品の受注が急増し、業況が好転したが特需の性質もあり、このまま業績を維持できるのか、今後の見通しが立てづらい。
- ・コロナ不況下でも会社の業績は安定しているが、注文数量が伸び悩んだ得意先がある一方で、注文数量が大幅に伸びた得意先もある。経営は運と隣り合わせであることを改めて感じる。
- ・業界内でコロナの影響を含め諸々の要因で廃業や検討が増え、サプライチェーンの毀損が出始めていると感じる。
- ・年明け早々、自動車関連の減産が大きく影響しそう。
- ・自動車関連部品を製造しているが、新年度に入ると同時に受注減の見通しとなっている。今後1~5月頃まで不安。

◎繊維工業

- ・営業方針の練り直し、販路の変更等問題が多い。

◎卸・小売業

- ・従業員の確保難。
- ・当店の商品は半年単位で考えないとなんとも言えないが、年間を通して前年度より悪くなっているのは確か。11月12月が悪ければ1,2月はある程度よくなると思える。

◎飲食・サービス業

- ・仕出し、外食部門のコロナによる影響が極めて大きく、今後の見通しが不安定。昨年の6月から手掛けたスーパー向けの惣菜および弁当が安定してきた。新規事業にかかわる設備投資が大きく、できれば、国からの援助を希望したい。
- ・地方の疲弊を正常化してほしい。

足利市のチラシ折込調査レポート (2020.11)

調査地：足利市伊勢町

2020年11月の足利市の折込広告枚数は325枚で前年比マイナス16.2%（前々年比はマイナス27.0%）であった【※栃木県4地区平均では339.8枚、前年比-15.6%】。

※栃木県4地区…足利・宇都宮・那須塩原・小山

サイズ別では、B4(A4)サイズが最も多く全体の57.5%であった。次いでB3(A3)サイズの38.5%となり2種類のサイズが9割以上を占めた。また曜日別では、土曜日が最も多く全体の23.4%に上り、次いで水曜日の16.9%、金曜日の16.3%、日曜日、火曜日、木曜日、月曜日と続いた。

業種別では食品スーパーが71枚（前年比-14.5%）で、先月に引き続き首位となった。2位は医薬・化粧品で39枚（前年比+8.3%）、3位は家電・精密機器で26枚（前年比-10.3%）であった。4位は衣料用品店で24枚（前年比-29.4%）、5位は17枚で不動産・建築（前年比-19.0%）と輸送機器（前年比-29.2%）が並び、上位5業種の中では、医薬・化粧品が前年を上回る一方、それ以外全ての業種が2ケタ減となった。

		6月	7月	8月	9月	10月	11月
足利	枚数(枚)	247	290	255	270	301	325
	前年比(%)	▲34.0	▲24.9	▲28.0	▲22.6	▲13.0	▲16.2
	前々年比(%)	▲39.0	▲30.1	▲29.6	▲28.4	▲31.1	▲27.0
栃木県平均	枚数(枚)	269.3	309.5	274.0	293.0	326.0	339.8

※栃木県平均…宇都宮・那須塩原・足利・小山地区の平均枚数

業種別出稿枚数ランキング(足利市)

(2020年11月1日～30日)

順位	業種(細分類)	枚数			前年比(%)	前々年比(%)
		20年	19年	18年		
1	食品スーパー	71	83	87	-14.5	-18.4
2	医薬・化粧品(ドラッグストア・通販等)	39	36	49	+8.3	-20.4
3	家電・精密機器	26	29	27	-10.3	-3.7
4	衣料洋品店	24	34	44	-29.4	-45.5
5	不動産・建築	17	21	17	-19.0	0.0
	輸送機器(自動車・カー用品等)	17	24	31	-29.2	-45.2

サイズ別枚数(2020年11月1日～30日)

サイズ別				
B1(A1)	B2(A2)	B3(A3)	B4(A4)	B5(A5)
0	8	125	187	5
0.0%	2.5%	38.5%	57.5%	1.5%

曜日別枚数

(2020年11月1日～30日)

曜日別						
日	月	火	水	木	金	土
48	14	41	55	38	53	76
14.8%	4.3%	12.6%	16.9%	11.7%	16.3%	23.4%

調査：(株)栃木読売IS